

株式会社新星工業社 ～ 人と未来の夢、ささえる。～



左：佐々木 誠 社長

右：広島銀行皆実町支店 手柳 支店長

■身近なものから宇宙まで

広島銀行 皆実町支店 手柳支店長(以下「手柳」敬称略)：まず、事業について伺えますか。

株式会社新星工業社 佐々木誠社長(以下「社長」)：当社には大きく2つの部門があります。システム制御装置などの設計、製作から販売までを手掛ける製造部と、オフィスや工場のコンピューター等の販売・保守、システム開発を行う電子事業部で、ハードとソフトの両面から幅広い技術やサービスを提供しています。

手柳：システム制御装置とは具体的にはどのようなものでしょうか。

社長：例えば、ダムや河川の状況を監視し、放流などを制御するシステムのほか、タービンやコンプレッサのコントロールシステム、ビルや工場の受配電制御システム等を製造しています。高速道路のETCシステムのラック等もあります。事業のウェイトとしては全体の3分の1程度を占めており、海外へも納入しています。

手柳：量産できる製品ではないですね。

社長：はい。当社は一品だけの特注品が得意で、企画・システム開発から設計、板金・組立・塗装、そして設置、検査保守までを一貫して行い、お客様のニーズに細かく対応することを強みとしています。

高圧受電設備



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：特注品といえば、CMでも有名なロケット関連の仕事も手掛けられています。

社長：ロケット発射前後に稼働する燃料とかの貯蔵設備を管理するため、その制御盤や監視システムを製造しています。ロケット打上前や各設備の保全作業には毎年多くのスタッフが宇宙センターに張り付いて対応しています。

手柳：ロケットの仕事は大変ハードルが高いイメージがありますが。

社長：種子島宇宙センターの仕事は17年前から携わっています。はじめはロケット打上前後に稼働する貯蔵所の制御や監視システムの更新を請負いました。そこからロケット組立棟や宇宙センター電源設備の制御システムの話を頂き仕事がありました。そうして弊社の技術力が認められ、2007年(平成19年)にはJAXA(宇宙航空研究開発機構)より感謝状も頂きました。

手柳：仕事に対する高い信頼を得られたからこそと思います。御社の事業は本当に幅広いですね。

社長：細かく言えばキリがありませんので、最近では“ITサービス業”と言っています。ただ、創業以来、身近な日々の暮らしから遠い宇宙に関わることまで、独自の最先端技術を培ってきました。世の中にないものを創り、当たり前存在になっていく。これからも人々の暮らしと地域社会の未来を支え続けていきたいと考えています。

■スターのような存在を目指し

手柳：元々はどんな事業から始められたのですか。

社長：私の祖父、佐々木虎男が1953年(昭和28年)に金属製品や電気通信機の製造販売を始めたのが最初です。祖父は戦時中に通信兵として、戦後は電波管理局で働いており、通信機器に精通していたと聞いています。

手柳：ご自身の技術を活かして起業しようと考えられたんですね。

社長：いいえ。実は、止むを得ず会社を始めたそうです。当時、祖父が連帯保証人になっていた会社が倒産の憂き目に遭い、お金を返す代わりに会社を引き継ぎました。ですから、祖父と父で先代ひろしの寛は2人で親戚にお金を貸してくれと歩いて回るところからのスタートだったそうです。

手柳：大変なご苦労があったんですね。

社長：はい。当社はここ宇品(広島市南区)で創業し、祖母は近所の競輪場にやって来る人の自転車を1日5銭か幾らかで預かって日銭を稼いでいたと聞いています。創業時の自宅兼工場の写真が残っていますが、袴と下駄を履いていた時代の話です。

創業当時



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：創業当時から星のマークがありますね。

社長：その頃は映画全盛期でしたので「お客様にとって銀幕のスターのような存在になりたい」という思いだったと聞いています。

手柳：創業時から掲げておられる経営ビジョンについても教えてください。

社長：経営ビジョンは「奉仕、誠実、規律、実行」と掲げています。創業以来、私たちは常に優れた製品を開発し、社会やお客様に対して感謝の気持ちをもって誠実に奉仕すること、規律のある行動と勇気ある実行を信念にしてきました。

■情報化の進展とともに

手柳：ところで、私どもに馴染みがあるのが保守のお仕事ですが、かれこれ65年の取引ですね。

社長：そうですね。本格的な取引となったのは、私の父が「今からはコンピューターの時代だ」と言って、コンピューター部門を立ち上げた1966年(昭和41年)頃です。

手柳：本当に長い取引をいただいています。

社長：その頃、先々代の虎男が「息子(寛)を好きに使ってくれ」と広島銀行の方をお願いし、SE(システムエンジニア)として7年ほどお邪魔したそうです。その中で、主な仕事として、テレ為替のためのテレタイプ設置店の全店化、コンピューターによる勘定処理のプログラム化等を行ったそうです。その後、富士通株式会社がCD(キャッシュディスペンサー：現金自動支払機)を開発され、今度は富士通の営業として先代が広島金融機関を回ったと聞いています。

手柳：いわゆる銀行システムの第1次オンライン化(注)の時期ですね。

社長：はい。そして第2次オンラインの時は、広島銀行のシステム部門の課長と本支店のオンライン統合・勘定システムの構築を行い、為替のシステムを開発し、それが全国銀行協会に採用された(注) 銀行のオンライン化：

- ・第1次(1960年代半ば～)
本支店のオンライン統合など勘定系システムの構築
- ・第2次(1970年代半ば～)
金融機関同士のオンライン接続など勘定系システムの強化
- ・第3次(1980年代半ば～)
営業・収益管理の強化等に向けた情報系システムの構築

そうです。先代は事あるごとにこの話をして、「特許を取っておけばよかった」と笑っていました。

手柳：それはどのようなシステムですか。

社長：翌日に付け替えられる最先端の為替システムで、今でこそ当たり前になっていますが、当時は広島銀行しかやっていませんでした。

手柳：業種的にも成長していた時期ですね。

社長：そうですね。それまでは売上も山あり谷ありでしたが、ダム関連や銀行のシステム関連の仕事を始めたことで、ようやく安定的に事業を進められるようになりました。

手柳：コロナ禍における最近の状況はいかがですか。

社長：厳しい状況には変わりありません。とりあえず今期についてはコロナ前に受注していたものが動いていますが、特に製造の方はお客様への営業活動が思うようにできておりません。保守関係の仕事も銀行の店舗削減や機械の入替えがあれば減っていきます。来期以降が正念場かなという状況です。

手柳：テレワークや会議・授業などのオンライン化の影響はいかがですか。

社長：一般のユーザーはアプリさえ入れてしまえば対応できる先が多いので、改めてそのための投資を行うほどの需要はありません。また、学校関係ではタブレット端末やパソコン等のIT教材の導入をサポートしましたが、こちらは既に一段落しています。

■企業イメージの向上に向けて

手柳：改めて社長のご経歴を教えてください。

社長：高校卒業後は神奈川県で電気工学を学びました。子供の頃から周りに後継ぎだと言われて育ち、それを当たり前のように感じていましたので、会社のことを考えて専門を選びました。

手柳：どのような学生時代でしたか？

社長：よく覚えているのは箱根駅伝です。アルバイトをしていたガソリンスタンドの前がそのコースでしたので、正月には日の丸を振っていました。藤沢から茅ヶ崎に行く途中で海岸線に出る少し手前あたりです。当時は盆暮れのラッシュがひどく実家に帰るのが面倒くさかったので帰省せず、毎年箱根駅伝を応援していました。

手柳：卒業後すぐに入社されたのですか？

社長：はい。1995年(平成7年)に入社しました。すぐに富士通の中国支社に出向し、3年半ほど広島エリアを担当して、保守や営業について学びました。そして、SE的な知識やスキルはありませんでしたが、当社に戻ってからは社内のシステム化を進める部署に入りました。製造に関しては、役員になってから現場を知るために2ヵ月ごとに各部署をジョブローテーションのような感じで回りました。

手柳：製造部は全く異なる仕事だと思いますが、大変だったのではないですか。

社長：いいえ。私はものづくりの作業が好きでしたので、苦にはなりません。また、当時の課長クラスの方々は先々代の頃から働いてきた人達です。会社のレクリエーション野球や海水浴等で私の幼少期から知っている方々ですので、快く受け入れてもらえました。

対談風景



(資料) 当研究所撮影

手柳：2011年(平成23年)に社長に就任され、その後、ロゴマークを変更されましたね。

社長：以前から、人材確保のためにも企業イメージを向上させたいと考えていましたので、その一環として5年前に、ロゴマークを変更しました。当社のシンボルマークである星を右肩上がりデザインしたもので、青は誠実さや精密さ、知的さを、黒は信念の強さやプライドを表しています。

ロゴマーク

人と未来の夢、ささえる。



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：テレビCMも始められました。

社長：はい。同じ目的で4年前に学生向けのCMをつくりました。当社はBtoB企業ですので、「一般向けに事業をPRできて、なお且つ印象に残る」ということをコンセプトにしました。すると、半月もしないうちに、取引先から「CMしよるね」と声が掛かるようになりました。反響は大きかったですね。

手柳：採用への効果はいかがでしたか？

社長：学生まで浸透するのには1年近く時間がかかりましたが、採用へのインパクトは大きいものがありました。以前は合同企業説明会をやってもいつも閑古鳥で、採用したいのに誰も来ないといった感じでした。最近では、応募者数が以前の3倍以上に増えています。本当にCMの効果です。

手柳：このCMは私も強い印象を受けました。

社長：第1弾のCMは“ロケット”のイメージが良かったと思います。ただ、製造部以外の部署にはあまり関係がないため、第2弾は社会を守る“ヒーロー”をイメージしたCMにしてみました。CMの肝となるヒーロースーツのデザインにもこだわったので、とても良いものに仕上がりました。

テレビCM「社会を守る人」編



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：ワーキングウェアにもこだわられています。

社長：これは、お客様でもあるカイハラ株式会社のワーキングウェアです。ご挨拶に伺う度に「カッコいいな」と思っていて、カイハラさんのご好意でイメージアップの一環として導入することができました。ファッションブランド「Lee」のデザインで、当社のシルクスクリーン印刷でロゴを入れています。

ワーキングウェア(左：冬用、右：夏用)



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：大変おしゃれなウェアですね。

社長：ありがとうございます。製造部に年2回(夏・冬)支給し、これまでより2倍のコストがかかっています。ただ総務部の人間も着ていましたので、他の社員から「なんでわたしのがないんや」との声が上がり、ボーナス+αの現物として他部門にも支給しました。保守担当の社員もこれを着て張り切ってお客様のところに行っています。

手柳：工場も新しくされました。

社長：2018年(平成30年)に、出島(広島市南区)に製造本部となる新工場を建て、やっと工場を2カ所に集約しました。それまでは増設に増設を重ねていましたので、効率的なラインになっておらず、そうした問題点を今回あらかた改善することができました。

手柳：生産性が上がりましたか？

社長：そうですね。これまでの一番の問題は天井の高さでした。例えば、溶接の時に製品の向きを変えたりする場合、大型のものは天井が低いためにクレーンが使えず、人力で四苦八苦していました。そうした点も解消され、作業効率は2割程度上がりました。そして、労働環境の改善や残業時間の削減にもつながっています。

新工場(製造本部)



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：熱心に取り組まれている働き方改革の一環でもありますね。

社長：専務になった時に各部署を回っていたので、当社の問題点は肌身で感じていました。働きやすい環境をつくるために部署ごとに異なっていた休日日を統一して完全週休二日制にし、タブレットを導入して外出先で報告書を作成できるようにしました。こうした業務の改善にも段階的に継続して取り組んでいます。

■一貫した製品・サービスの提供に磨きを

手柳：今後の目標や展望をお教えてください。

社長：目先、厳しい状況が続きますので、それへの対応と、70歳定年への延長に向けてどう仕事を創造していくかを考えています。また、長期的には、当社には設計、製造から販売、保守等の部門がありますので、この体制をさらに強化し、当社の独自製品づくりやサービスの提供に生かしていきたいと考えています。

手柳：最近ではカーボンニュートラルという言葉がよく耳にしますが、どう捉えていますか。

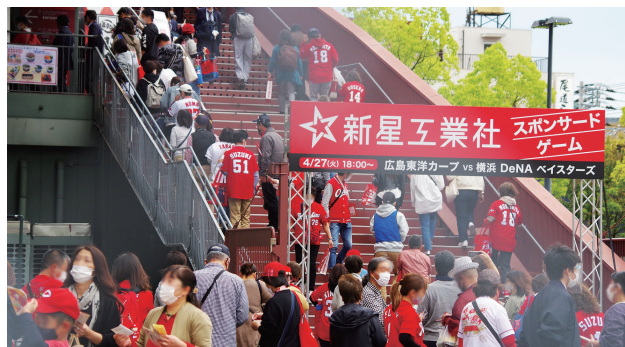
社長：お取引先のご要望に応じるためにも、引き続き環境負荷の軽減に取り組んでいかなければなりません。ただし、将来的にどういう形になっていくのかはまだわかりません。例えば、制御システムも昔は大きな操作卓がありましたが、今やパソコン1台で済みます。デジタル分野1つとっても必要なくなるものもあると考えています。

手柳：地域貢献活動にも注力されていますね。

社長：広島は企業ですので、これからも何らかの形で地域に貢献していきたいと考えています。4月にはマツダスタジアムで当社のスポンサードゲームを行い、観戦チケットを社会福祉法人広島修道院に寄贈しました。コロナ禍で大変な時期です

が、少しでも子供たちには喜んでもらいたいと思い行いました。これからも色々な機会を捉えて取り組んでいきます。

新星工業社スポンサードゲーム



(資料) 株式会社新星工業社

手柳：大変な時期にお話しを伺い、本日は誠にありがとうございました。

会社の概要

名 称：株式会社新星工業社
所 在 地：広島市南区宇品海岸3丁目8番60号
T E L：(082) 251-5270
代 表 者：代表取締役社長 佐々木 誠
事業内容：電子機器の設計・製造・販売・保守等
創 立：1953年4月
資 本 金：3,200万円
社 員 数：293名



対談後コメント



広島銀行皆実町支店
手柳支店長

新星工業社様とは創業以来、半世紀以上にわたる長い取引を頂いています。また、幣行のシステム全般の保守をして頂いており、我々にとって馴染みのあるお取引先であります。

今回の対談で最も印象に残ったのは、佐々木社長の「ITサービス業」という言葉で、日々の暮らしから宇宙まで、幅広い分野において独自の最先端技術を培い、人々の暮らしと地域社会の未来を支え続けていきたいと言われたことです。

我々も同様に「金融サービス業」として、地域の皆様の様々なニーズに対応することで、お取引先様の成長と地域の発展に貢献できるよう、取り組んで参ります。